NIE実践報告

1．タイトル：新聞を活用し、現代社会を生きる力を育てる―高等学校地理歴史科の授業における新聞の

2．学校名

長野県松本美須々ヶ丘高等学校

3．実践者名（代表者名）

仁科利明

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

地理歴史（選択「地理B」）　38人

6．単元（本時の学習課題）名

エネルギー・環境問題

7．目標(狙い)

エネルギー・環境問題に関する新聞記事を活用し、地域性をふまえ、複雑に関連しあい地球規模の問題化していることを理解させ、解決の取り組みが急務であることに気づかせる。

8．評価の視点

世界各地のさまざまエネルギー・環境問題の現状を知り、問題の相互関連と解決の緊急性を理解し、国際的な協力とともに個人の取り組みも必要なことを考えることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「エネルギー・環境問題」9時間　　＊本単元までに「国家規模の地誌」「州・大陸規模の地誌」「近隣諸国と日本」などで、学習内容や対象地域に関連したエネルギー・環境問題などの新聞記事を利用した。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①エネルギー・環境問題の地域性（2時間）
②さまざまなエネルギー・環境問題（4時間）
③問題解決への国際的取り組み（1時間）
④日本のエネルギー・環境問題（2時間）

（留意点）
・1学年時必修「地理B」で学んだ「自然環境」「資源と産業」などの内容と時事的な新聞記事とを結びつけ、今日的なエネルギー・環境問題への生徒の理解を深めさせる。
・地球温暖化問題の新聞記事の活用を核にして、南北問題などの地域性や資源・エネルギー消費と産業構造など、生徒が現代世界を考える視野を広げられるよう助言する。
・身近な地域での取り組みなどを取り上げた新聞記事を活用し、問題解決には私たち一人一人の取り組みも必要であることに気づかせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

砂漠化や熱帯林破壊の問題に比して、地球温暖化問題は身近な問題として受け止め考える生徒が多かった。国際的な取り組みを知るとともに、日常生活でのエネルギー消費やゴミの減量化、リサイクルなど自分たちの問題として考えることができた。

12．成果と課題

生徒会が主体となり、ゴミ分別の徹底や地域の就労支援施設の資源回収事業への協力なども始まった。新聞閲覧コーナーで新聞を読む生徒の姿も多くなった。今後は、社会科の他科目や他教科、総合的な学習の時間などでの新聞記事の活用もさらに進展させたい。